

Interview

歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士

三位一体で活動する場が必要

視点

「形態美」「色彩美」「機能美」。3つの視点から患者を幸福に導くための学問である、「歯科審美学」。一方で、「審美歯科」は単なる美容目的の治療と誤解されることもある。一般社団法人日本歯科審美学会は、「歯科審美」について国民に正しく伝え、高い医療技術でそれを実践することを目指している。今回は同学会の理事長を務める大槻昌幸氏にインタビューし、学会の活動や独自の認定医制度などについて聞いた。聞き手は坪田有史会長。

—学会について教えてください。

一般社団法人日本歯科審美学会は、英語で「Japan Academy of Esthetic Dentistry」と訳します(略称「JAED」)。設立目的は、「歯科審美に関する学問と技術を研究し、歯科審美学の進歩発展を図るとともに、会員が顎口腔の形態美・色彩美・機能美の調和が図られた歯科医療を実践することにより、国民の健康増進及び福祉の向上、活力ある円滑な社会生活の実現並びに人々の幸福感の向上に貢献すること」と定款で定め、活動を

行っています。歯科審美学とは、顎口腔における「形態美」「色彩美」「機能美」の調和を図り、人々の幸福に貢献する歯科医療のための教育及び学習に関する学問体系と定義しています。審美歯科は、歯科審美学を実践する治療で、単なる美容目的の治療ではありません。

また、本学会では機関誌「歯科審美」を年2回、3月と9月に発行しております。機関誌では、審美歯科に関する研究発表や審美歯科治療に関する症例報告などを掲載しています。「審美歯科」「審美歯科治

国民の健康増進や
幸福感向上への寄与

療」という言葉は、国民に広く周知され普及してきたように思いますが、「何となくわかるけれども、よくわからない」という声も耳にします。そこで、本学会では、「審美歯科」「審美歯科治療」について分かりやすい表現で再定義を行い、これを国民に周知することが急務と考えています。

本学会はこれまでにAAD(アジア歯科審美学会)とIFED(国際歯科科学会)の創設に関与しました。現在、AACD(米国美容歯科学会)、KAED(韓国歯科審美学会)と姉妹学会協定を結び、学術交流を行っております。

—歯科審美についてもう少しお聞かせください。

歯科治療において、機能の回復とともにきれいな歯並びと歯の形、そして歯の色調を欠かすことはできません。歯科治療によって機能を回復できたとしても、審美的満足感が得られなければ、患者さんは決して心身ともに健康を取り戻したという実感は得られません。実際、患者さんは歯の機能回復だけでなく、形態や色調も重視する傾向にあります。

残念ながら、一般の歯科診療と比べて、審美歯科治療は金銭的な問題や治療内容などに関して、患者さんとのトラブルが少なくない。初代会長は羽賀先生で、アジア歯科審美学会の創設にも尽力されました。本学会は、1990年に日本歯科審美学会に名称変更し、2015年4月1日に、法人格を持つ「一般社団法人日本歯科審美学会」となりました。現在、「歯科医師」「歯科技工士」「歯科衛生士」が加入し、合計で約6000名の会員がいます。設立当初から開業医の会員が多いのも

本学会の特徴です。学会の理事長に開業医の会員が就任したこともあり、多くの開業医の会員が役員として学会運営に携わっています。

また、本学会の特徴として、歯科技工士、歯科衛生士が多数入会していることも挙げられます。審美歯科治療に限ったことではありませんが、歯科治療はチーム医療です。審美歯科治療の実践のために、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士が一緒に、しかも同じ立場でやっていく場所として、いわば「三位一体」といえる本学会のような学術団体が必要と考えています。

—では、第32回学術大会の聞きどころをお聞かせください。

本学会では毎年学術大会を開催しており、2021年は11月13・14日に東京・お台場で第32回学術大会を開催しました。そして、2022年は、「形態・色彩・機能、三位一体の歯科審美」をテーマとする第33回学術大会を10月15・16日の2日間、「りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館」で開催する予定です。ここでは、歯科保存分野から「長期的耐久性を考慮したダイレクトレストレーション」、補綴歯科分野から「咀嚼機能と耐久性を重視した審美的補綴治療」、歯科矯正分野から「中高年者の歯周・矯正治療」をテーマとする3つのシンポジウムを企画しています。また、歯科技工士セッションでは、「修復物・補綴物メンテナンスのチーム医療」を、歯科技工士セッションでは、「審美的歯科補綴治療を成功させるための情報伝達」をテーマとし、審美歯科治療を成功させるために、歯科医師、歯科技

工士、歯科衛生士によるチーム医療について公開討論を行います。

学術大会の他に、年に数回、学術講演会を開催しております。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の流行のため、オンラインで実施しました。

—専門医制度について教えてください。

本学会では、「歯科審美学の専門的知識および臨床技能・経験を有する歯科医師により、歯科審美医療の高度な水準の維持と向上を図り、国民の保健福祉に貢献すること」を目的とし、それを達成できる歯科医師を育成し、国民の保健福祉に貢献するため、1996年に「日本歯科審美学会認定制度」を創設しました。

この認定医は、歯科審美学領域における診断と治療のための高い歯科医療技能を修得することにより、他診

に教員の方が学生から教えられることもあり、学生の習熟と環境適応の速さには感心しているところですが、グループレッスンで何の抵抗感もなくディスカッションができ、学生は最初から授業はそういうものだと思っっているように感じます。学生のポテンシャルの高さを感じます。

—夢は必ず叶う。これは、私の元上司で、本学会元会長の田上順次先生が、揮毫(きこう)や寄せ書きの際に、「夢は大きく」という言葉を書いてい



一般社団法人日本歯科審美学会 理事長
東京医科歯科大学大学院 歯医学総合研究科 歯医学系専攻
口腔機能再構築学講座 口腔制御学准教授

大槻 昌幸氏

(おおつき・まさゆき)

略歴

1984年、東京医科歯科大学歯学部卒業。1988年、同大学大学院歯学研究科修了。1988年、同大学歯学部歯科保存学第一講座助手。2000年、同大学大学院歯医学総合研究科口腔制御学分野助教授。2008年より現職。2021年、一般社団法人日本歯科審美学会理事長。所属学会は、日本歯科審美学会、日本歯科保存学会等。研究テーマは「漂白治療に関する基礎的および臨床的研究」「う蝕の診断に関する研究」「接着性材料の基礎的および臨床的評価」。

医療技術評価提案書

—22年度診療報酬改定が実施されましたが、貴学会の医療技術評価提案書について教えてください。

2022年度診療報酬改定を巡り、本学会は医療技術評価提案書として、①前歯部CAD/CAM冠のコーティング、②歯科用CAD/CAM装置を用いたフアイバー補強高強度コンポジットレジンブリッジ、③臼歯部テンボラリクラウンの3点を厚生労働省に提出しました。

まず①については、前歯部CAD/CAM冠は保険・抑制につながり、国民に

導入されましたが、規格化された歯冠色を有するレジンプロセックを使用する点から、再現可能な色調に制約があります。また、治療に要するコストを勘案した点数を求め、提案しました。

次に②については、現在、3ユニットのブリッジの補綴治療では、歯科用金属材料(金銀パラジウム合金)が保険適用されていますが、本提案により金属代替材料を使用することによってメタルの使用を減らすことができ、医療費の削減・抑制につながり、国民に

とてもメリットが大きいと考えています。

また、③については、前歯部には認められていますが、臼歯部には認められていません。歯科教育では、必ず装着するように教えられているテンボラリクラウンが保険では無料サージス(再診料に包括されている)になっていることは問題だと考えています。

—歯学生に期待することをお聞かせください。

コロナ禍で大変な時期もありましたが、学生はオンライン授業にしっかり対応できています。学生の方が我々教員よりも一ヶ月関係のツールの習熟度が早く、逆